

がんの悩み  
「患者本人/患者家族/近親経験者/未経験者」  
比較調査

“実施概要”および“患者本人編”

平成22年9月10日

株式会社QLife(キューライフ)

## 調査の実施概要

## 【調査実施概要】

### ▼調査責任

株式会社QLife

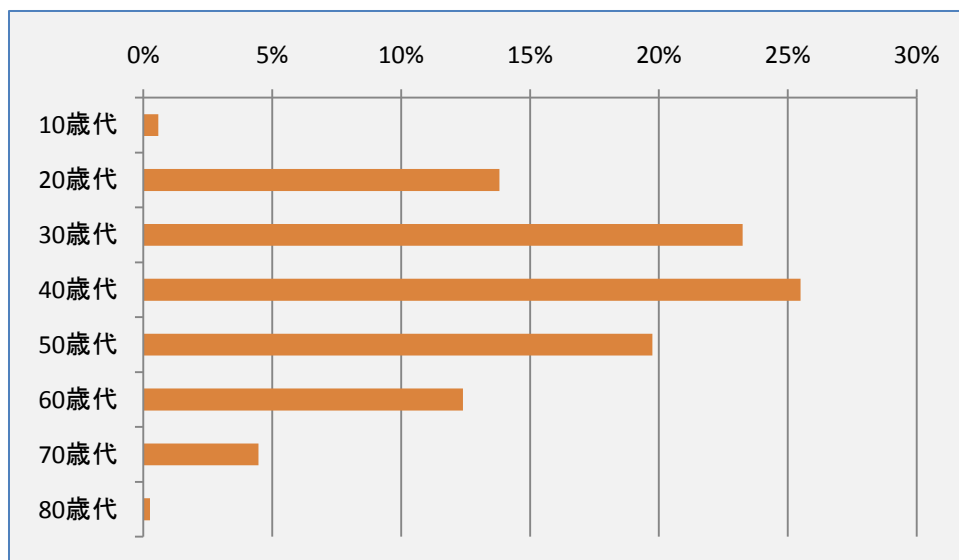
### ▼実施概要

- (1) 調査対象: 全国の一般生活者（「がんへの関与・関心」が高い人が比較的多く含まれる）
- (2) 有効回答数: 8,218人（有効回収数: 8,721人）
- (3) 調査方法: インターネット調査
- (4) 調査時期: 2009/10/16～2009/11/9
- (5) 参考資料: 『がん体験者の悩みや負担等に関する実態調査報告書: がんと向き合った7,885人の声』（「がんの社会学」に関する合同研究班、平成16年6月）

### ▼有効回答者の属性

(1) 年代:

年代	男性	女性	計	男性	女性	計
10歳代	26	21	47	0%	0%	1%
20歳代	418	717	1135	5%	9%	14%
30歳代	777	1134	1911	9%	14%	23%
40歳代	1080	1015	2095	13%	12%	25%
50歳代	1030	593	1623	13%	7%	20%
60歳代	807	212	1019	10%	3%	12%
70歳代	316	51	367	4%	1%	4%
80歳代	18	3	21	0%	0%	0%
合計	4472	3746	8218	54%	46%	100%

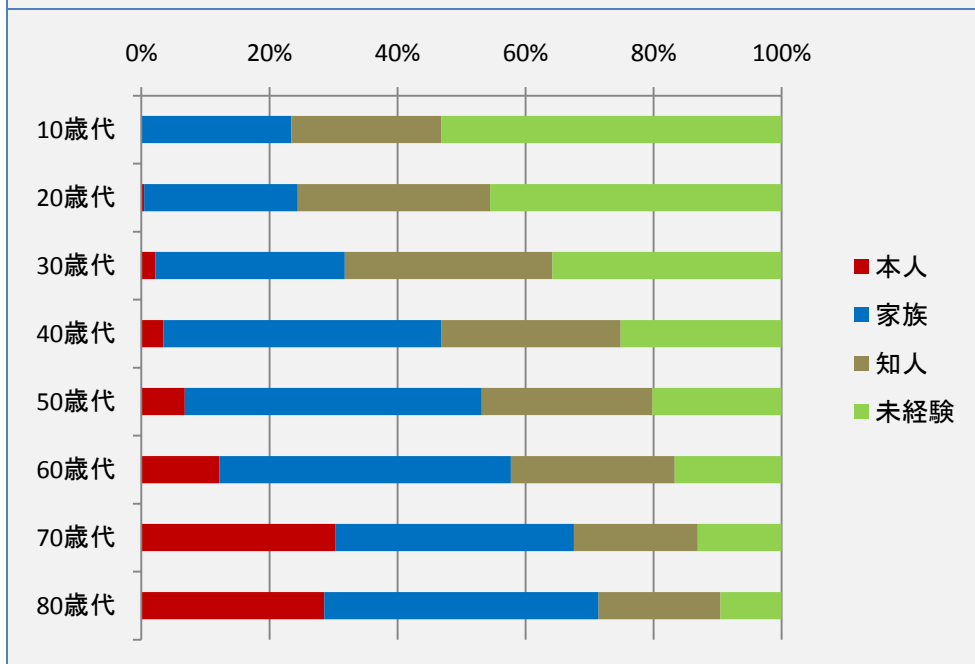
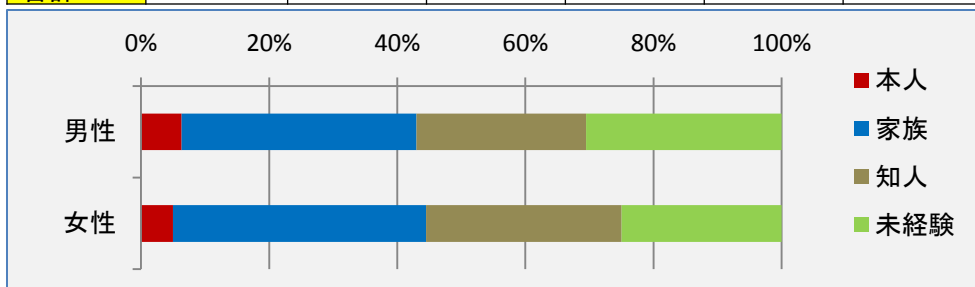


## 【調査実施概要】(つづき)

### (2) 関与度別:

“本人”	=あなた自身、がんの「患者」である、もしくは「治療経験」がある
“家族”	=家族に、「がん患者」がいる、もしくは、いた経験がある ※ここでは、「家族」=「同居家族」もしくは「非同居の配偶者・親・兄弟姉妹」として ください。
“知人”	=上記の「家族」ではないが、ごく身近な知人友人に「がん患者」がいる、もしくは、 いた経験がある
“未経験”	=上記のいずれでもない(自身や、ごく身近な人では、がんを経験したことがない)

関与度	男性	女性	計	男性	女性	計
本人	284	186	470	3%	2%	6%
家族	1639	1481	3120	20%	18%	38%
知人	1183	1144	2327	14%	14%	28%
未経験	1366	935	2301	17%	11%	28%
合計	4472	3746	8218	54%	46%	100%



## 【調査実施概要】(つづき)

### (3) 部位別(最初にがんと診断された時の部位):

患者本人、および家族に患者がいる/いた(既に死亡を含む)人にものみ、がんの部位を確認した。

※以下の表は、「家族ケース」の部位の多い順に並べ替え

※家族＝「同居家族」もしくは「非同居の配偶者・親・兄弟姉妹」。以降の記載でも同様。

部位	本人			家族計
	男性	女性	計	
胃	73	17	90	668
大腸・直腸	48	12	60	437
肺	22	2	24	406
乳房	1	78	79	320
肝臓	9	3	12	203
子宮	0	35	35	163
すい臓	3	0	3	148
前立腺	35	0	35	109
食道	6	1	7	87
咽頭・喉頭	10	0	10	83
その他	11	5	16	80
腎臓・副腎	15	1	16	64
膀胱	12	0	12	55
胆道・胆のう	1	1	2	51
卵巣・卵管	0	8	8	44
白血病	4	2	6	43
口腔・舌	7	3	10	28
脳	0	2	2	25
十二指腸・小腸	1	0	1	23
甲状腺	5	10	15	23
骨髄腫	4	1	5	21
皮膚	7	5	12	14
骨	2	0	2	10
精巣	8	0	8	9
軟部組織系(筋肉・脂肪)	0	0	0	6
合計	284	186	470	3120

### (4) 医療機関で受けた治療(複数回答):

患者本人、および家族に患者がいる/いた(既に死亡を含む)人にものみ、実施した治療内容を確認した。ただし、医療機関で受けたものに限定。

治療法	本人				家族	
	男性	女性	計	比率	計	比率
外科手術	192	159	351	75%	1958	63%
内視鏡・胸腔鏡・腹腔鏡手術	75	20	95	20%	469	15%
薬物療法(抗がん剤・ホルモン剤等)	92	101	193	41%	1685	54%
放射線治療	49	37	86	18%	832	27%
その他	16	8	24	5%	298	10%
合計	424	325	749	159%	5242	168%

## 【調査実施概要】(つづき)

### (5) 現在の治療状況:

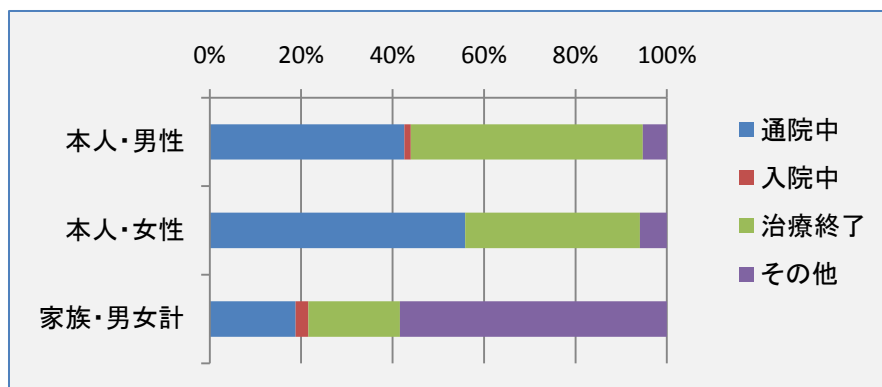
患者本人、および家族に患者がいる/いた(既に死亡を含む)人にものみ、治療状況を以下の4択で確認した。“入院中”が少ないのは、実査方法がインターネット調査であるため。

※家族＝「同居家族」もしくは「非同居の配偶者・親・兄弟姉妹」。以降の記載でも同様。

“通院中”	＝外来通院中
“入院中”	＝入院中
“治療終了”	＝既に治癒し、治療はうけていない
“その他”	＝その他 (既に死亡など:家族の場合)

段階	本人			
	男性	女性	計	比率
通院中	121	104	225	48%
入院中	4	0	4	1%
治療終了	144	71	215	46%
その他	15	11	26	6%
合計	284	186	470	100%

家族	
計	比率
587	19%
86	3%
625	20%
1822	58%
3120	100%



## “患者本人”編

### <目次>

- ・結論の概要
- ・「告知直後」編
- ・「現在」編

#### 結論の概要

1. 全般的に女性の方が、そして若い方が、悩みの内容は多岐。また、告知直後の方があれこれと多くの分野について悩み、治療終了に向かうにつれて絞られる。
2. 悩みの内容は、診療分野：非診療分野が約半分ずつだが、時間が経過すると非診療分野が占める割合が高まる。
3. 「最大の悩み」は性・年齢によって大きく異なる。男性は病気に直接的なもの、女性は副次的な内容が多い。「医療者との関係」が最大の悩みの人も1割いる。
4. 「内視鏡等手術≦外科手術<薬物療法<放射線」の順で、「診療に関わる悩み」を抱える人が少ない。
5. 悩みを人に相談した場合に、「相談した甲斐があった」とするのは6割。ただしその比率は、時間が経過すると下落する。
6. 3人に1人は誰にも相談せずに1人で悩み、時間経過すると、誰にも相談しない割合がさらに増える。

## 【結論の概要】（つづき）



### 【悩み内容】

【悩みの分野数】**2.9** ※  
【非診療関連の比率】**48%**

※別表のように悩みの内容を8分野に分けた場合

女性の方が、そして若い方が、多岐内容にわたって悩む。最も多くの人に共通する悩みは「治療法、手術や検査への不安」で、7割にのぼる。

【悩みの分野数】**2.1**  
【非診療関連の比率】**52%**

悩みの種類は平均2.1へ、告知直後に比べ3割収束する。ただし中身は変わる。「治療法、手術や検査への不安」「不安など心の問題」「家族・周囲との関係」に悩む人が激減し、代わりに「症状・副作用・後遺症の苦痛」「生き方・生きがい・価値感」が増加する。

【悩みの分野数】**1.5**  
【非診療関連の比率】**60%**

悩みの種類は平均1.5へ、通院中の患者群と比べて3割減少し、告知直後に比べると半減。多くの人に共通するのは「症状・副作用・後遺症の苦痛」で、特に男性では4割に達する。女性は「生き方・生きがい・価値感」と「不安など心の問題」の悩みが最多。

### 【最大の悩み】

「一番大きな悩み」は、性・年代によって異なる。例えば、40代男性は「就労・経済的負担」、40代女性は「不安など心の問題」が最大で、「治療法、手術や検査への不安」を挙げる人よりずっと多い。30代の10人に1人は「家族・周囲との関係」に最も悩む。

男性の最大の悩みは、「症状・副作用・後遺症の苦痛」や「治療法選択、手術や検査への不安など」といった直接的なものに集中する。女性は、副次的なテーマに一番悩む人が多く、分散する。なお1割は「医療者との関係」が一番の悩みになってしまっている。治療内容別では「内視鏡等での手術≦外科手術<薬物療法<放射線」の順で、「診療に関わる悩み」を抱える人が少ない。特に「内視鏡等」治療を受けた患者は、ほぼ全ての悩み分野において、悩む人が最少。

「その他」の悩みが多い。特に女性は4割に達する。

### 【相談相手】

家族以外の相談相手は、男性は「担当医」、女性は「友人・知人」「看護師」が多い。ただし、3人に1人は、誰にも相談せず1人で悩む。相談した人の6割は悩みが軽減するが、4割は変わらない。相談によって逆に悩みが増大した人はほぼゼロ。

告知直後に比べて、相談をしなくなる。相談した人でも、相談した甲斐があった人は減る。相談相手は、「親戚」「上司・同僚」「患者会」が減って「友人・知人」「担当ではない医師」「看護師」が増える。



## 【調査結果の詳細】（“患者本人 x 告知直後”編）

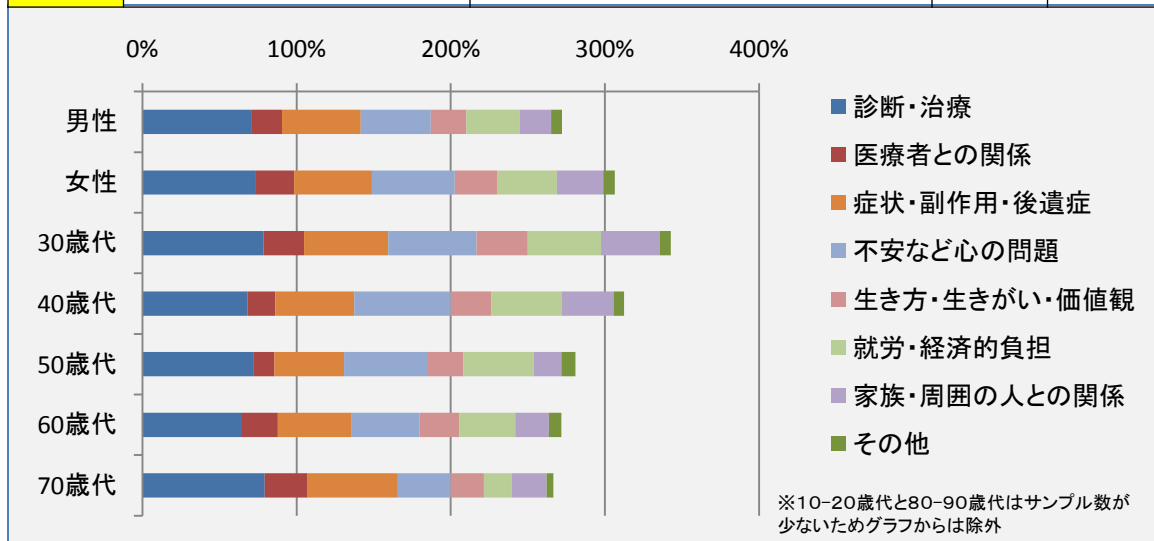
### 1. 「がんと診断された直後」のあなたの悩みは、どんな内容でしたか。（複数選択）

がんの告知を受けた直後に、どんな悩みを持ったのか、以下から選んで答えてもらった。

男性より女性の方が、また年齢が若い方が、悩みが多岐にわたることがわかった。特に「生き方・生きがい・価値観」や「就労・経済的負担」は年齢傾向が明瞭だ。また、最多数を悩ませているのは、どのセグメントでも「診断・治療に関する悩み」であった。また、「診療に関わること（選択肢1～3）」と「診療に関わらないこと（選択肢4～7）」の比率は、145:134=1:0.9とほぼ半々であった。

1. 診断・治療	= 治療法選択、手術や検査への不安など	診療に関わる こと
2. 医療者との関係	= 医師や看護師とのコミュニケーションなど	
3. 症状・副作用・後遺症	= 症状や副作用、後遺症などの身体的苦痛	
4. 不安など心の問題	= 将来不安、死の意識、動揺・絶望感、抑うつなど	診療に関わ らないこと
5. 生き方・生きがい・価値観	= 人生観、外見変化ストレス、自分らしさ変化など	
6. 就労・経済的負担	= 医療費、収入減、仕事への影響、蓄えなど	
7. 家族・周囲の人との関係	= 周囲の反応、孤立感、家族との関係変化など	
8. その他	= その他	

	診断・治療	医療者との関係	症状・副作用・後遺症	不安など心の問題	生き方・生きがい・価値観	就労・経済的負担	家族・周囲の人との関係	その他	計
男性	71%	19%	51%	45%	23%	35%	20%	7%	272%
女性	73%	25%	51%	54%	27%	39%	30%	8%	306%
10歳代	-	-	-	-	-	-	-	-	-
20歳代	60%	20%	60%	40%	40%	40%	0%	20%	280%
30歳代	79%	26%	55%	57%	33%	48%	38%	7%	343%
40歳代	68%	18%	51%	63%	26%	46%	33%	7%	313%
50歳代	72%	14%	45%	54%	24%	45%	18%	9%	281%
60歳代	65%	23%	48%	44%	26%	36%	22%	8%	272%
70歳代	79%	28%	59%	34%	22%	18%	23%	5%	267%
80歳代	100%	33%	33%	100%	0%	0%	33%	0%	300%
90歳代	-	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	72%	22%	51%	49%	25%	36%	24%	7%	286%
			145%				134%		



## 2. 「がんと診断された直後」のあなたの悩みのうち、「一番大きかったもの」は何ですか。

前問と同じ選択肢から、告知直後の最大の悩みを聞いた。

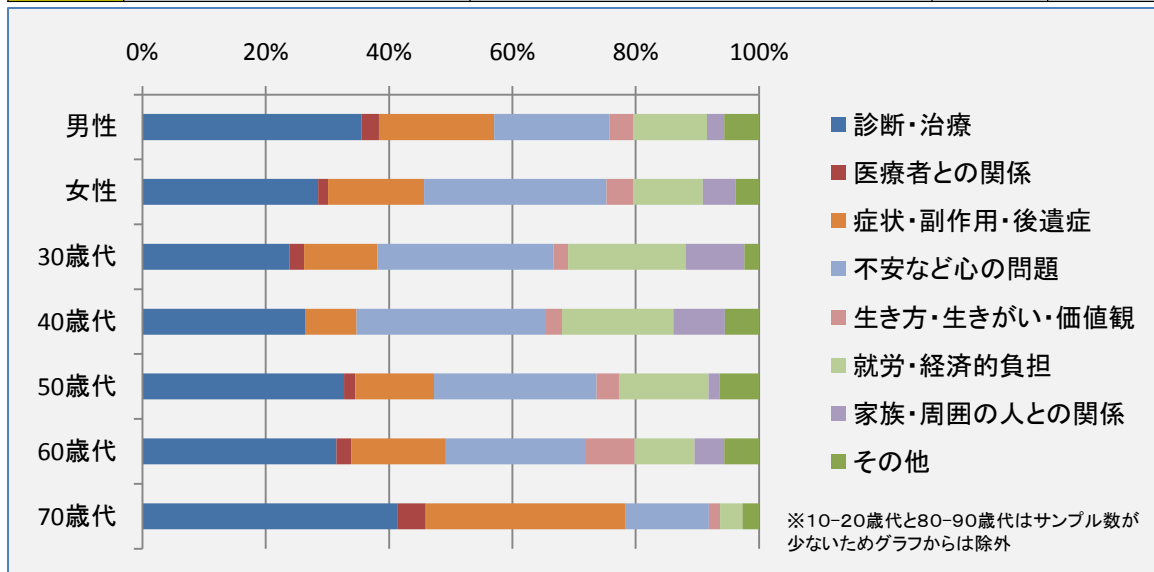
男性の最多は「診断・治療」関係である一方で、女性の最多は「不安など心の問題」であった。また、「不安など心の問題」に最も悩む人は、年齢が若いほど多く、例えば「女性×40代」では36%にのぼり2位の「診療・治療」の28%を大きく引き離す。

家計を支える立場になっていることが多い「男性×40代」では、「就労・経済的負担」が最大の悩みになった人が32%と1位で、2位の「診療・治療」関係の23%を大きく引き離れた。なお、30代40代では「家族・周囲との関係」が最大の悩みとする人が1割程度もいることは、要注目だ。

このように、性別・年代別で、「一番大きな悩み」の内容は異なることが分かった。

1. 診断・治療	= 治療法選択、手術や検査への不安など	診療に関わること
2. 医療者との関係	= 医師や看護師とのコミュニケーションなど	
3. 症状・副作用・後遺症	= 症状や副作用、後遺症などの身体的苦痛	
4. 不安など心の問題	= 将来不安、死の意識、動揺・絶望感、抑うつなど	診療に関わらないこと
5. 生き方・生きがい・価値観	= 人生観、外見変化ストレス、自分らしさ変化など	
6. 就労・経済的負担	= 医療費、収入減、仕事への影響、蓄えなど	
7. 家族・周囲の人との関係	= 周囲の反応、孤立感、家族との関係変化など	
8. その他	= その他	

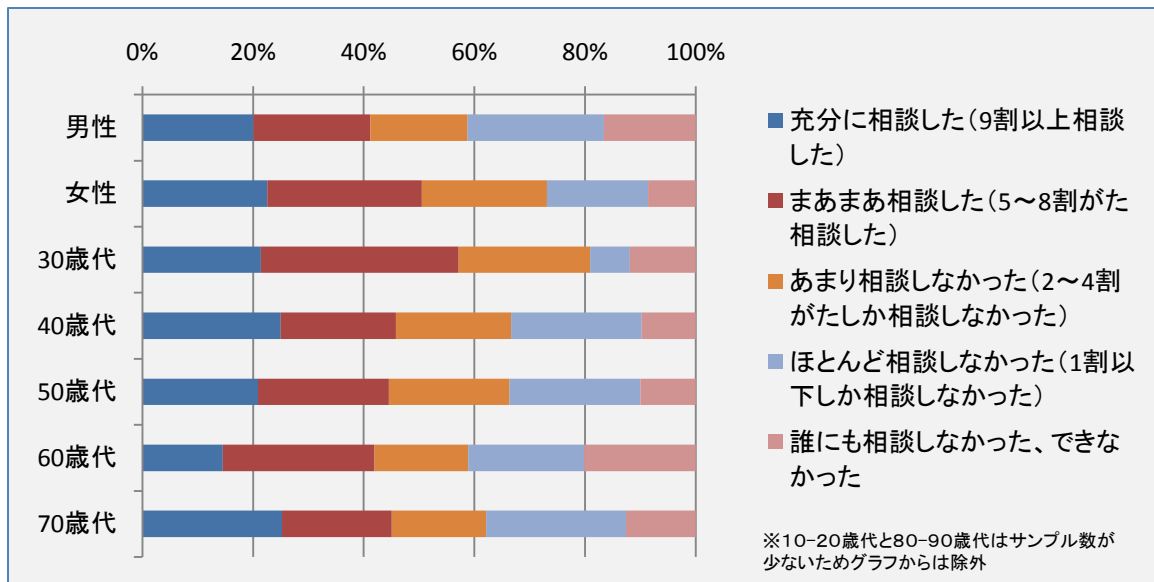
	診断・治療	医療者との関係	症状・副作用・後遺症	不安など心の問題	生き方・生きがい・価値観	就労・経済的負担	家族・周囲の人との関係	その他	計
男性	36%	3%	19%	19%	4%	12%	3%	6%	100%
女性	28%	2%	16%	30%	4%	11%	5%	4%	100%
10歳代	-	-	-	-	-	-	-	-	-
20歳代	0%	0%	40%	0%	0%	40%	0%	20%	100%
30歳代	24%	2%	12%	29%	2%	19%	10%	2%	100%
40歳代	26%	0%	8%	31%	3%	18%	8%	6%	100%
50歳代	33%	2%	13%	26%	4%	15%	2%	6%	100%
60歳代	31%	2%	15%	23%	8%	10%	5%	6%	100%
70歳代	41%	5%	32%	14%	2%	4%	0%	3%	100%
80歳代	67%	0%	0%	33%	0%	0%	0%	0%	100%
90歳代	-	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	33%	2%	17%	23%	4%	12%	4%	5%	100%
			52%				43%		



### 3. 「がんと診断された直後」に、悩みをどの程度、家族など他の人に相談しましたか。

相談具合はきれいに分散した。3人に1人は、誰にも相談できずに人知れず悩んだことが分かる。女性の方が、また年齢が若い方が、相談に積極的な傾向が見える。

	十分に相談した(9割以上相談した)	まあまあ相談した(5~8割がた相談した)	あまり相談しなかった(2~4割がたしか相談しなかった)	ほとんど相談しなかった(1割以下しか相談しなかった)	全く誰にも相談しなかった、できなかった	計
男性	20%	21%	18%	25%	17%	100%
女性	23%	28%	23%	18%	9%	100%
10歳代	-	-	-	-	-	-
20歳代	20%	0%	20%	40%	20%	100%
30歳代	21%	36%	24%	7%	12%	100%
40歳代	25%	21%	21%	24%	10%	100%
50歳代	21%	24%	22%	24%	10%	100%
60歳代	15%	27%	17%	21%	20%	100%
70歳代	25%	20%	17%	25%	13%	100%
80歳代	33%	0%	33%	33%	0%	100%
90歳代	-	-	-	-	-	-
合計	21%	24%	20%	22%	13%	100%
			65%		35%	100%



4. (前問で、「十分に相談した」「まあまあ相談した」「あまり相談しなかった」の回答者のみ)  
「がんと診断された直後」に、あなたが悩みを相談した相手は誰でしたか。(複数選択)

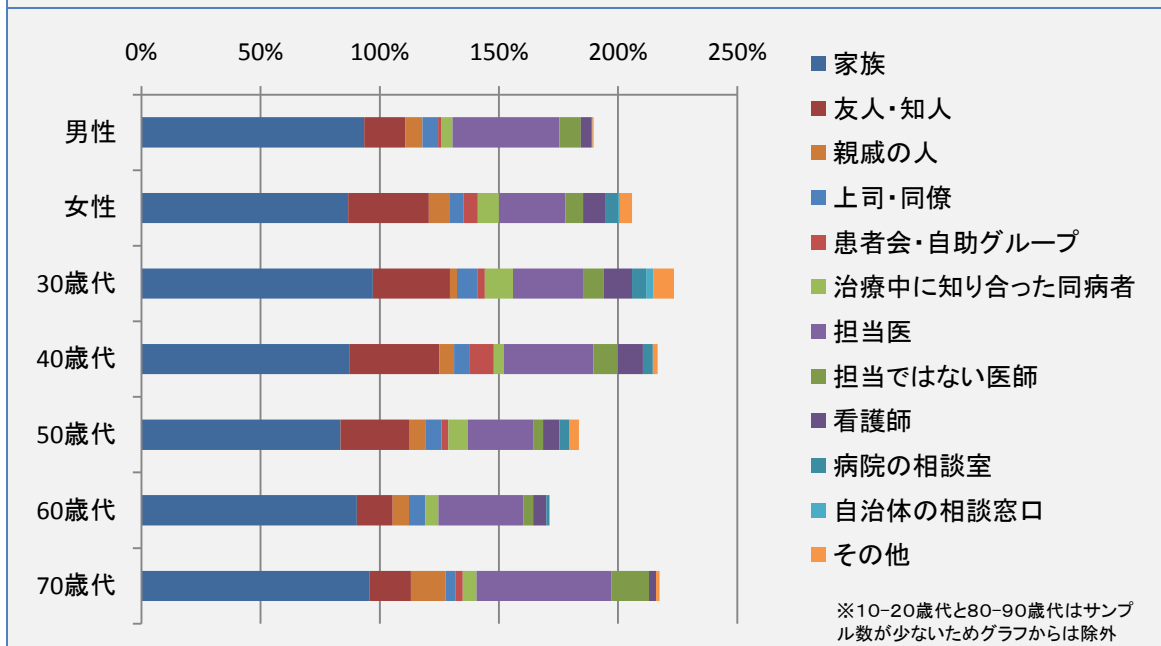
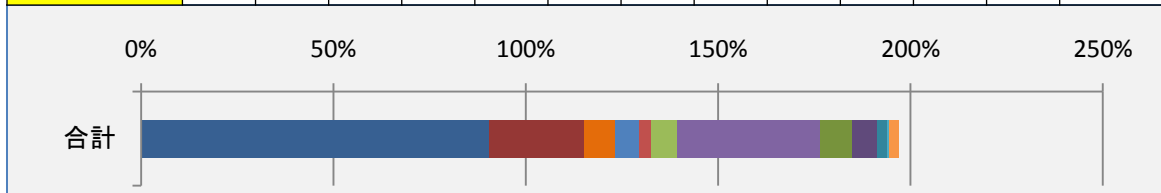
悩みを相談した人は、誰を相談相手にしたのだろうか。

男女別では女性の方が、年代別では若い方が、相談相手が多種にわたる傾向がある。

最多は、男女ともに「家族」で9割前後にのぼる。ただしこの設問はあくまで「相談した人」に対してのみ実施されたので、約3人に1人は家族にさえ相談できない(前問結果)ことに注意。

2位は男性が「担当医」、女性は「友人・知人」と分かれた。前々問で、男性の内容は「診断・治療」が最多で、女性は「不安など心の問題」であったことから、うなずける結果だ。「看護師」も女性や若年層には貴重な相談相手になっていることが分かる。

	家族	友人・知人	親戚の人	上司・同僚	患者会・自助グループ	治療中に知り合った同病者	担当医	担当ではない医師	看護師	病院の相談室	自治体の相談窓口	その他	計
男性	93%	17%	7%	7%	1%	5%	45%	9%	4%	1%	0%	1%	190%
女性	87%	34%	9%	6%	6%	9%	28%	7%	10%	5%	1%	5%	206%
10歳代	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
20歳代	100%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	100%
30歳代	97%	32%	3%	9%	3%	12%	29%	9%	12%	6%	3%	9%	224%
40歳代	88%	38%	6%	6%	10%	4%	38%	10%	10%	4%	0%	2%	217%
50歳代	84%	29%	7%	7%	3%	8%	27%	4%	7%	4%	0%	4%	184%
60歳代	90%	15%	7%	7%	0%	5%	36%	4%	5%	1%	0%	0%	171%
70歳代	96%	17%	14%	4%	3%	6%	57%	16%	3%	0%	0%	1%	217%
80歳代	100%	50%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	150%
90歳代	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	90%	25%	8%	6%	3%	7%	37%	8%	7%	3%	0%	3%	197%

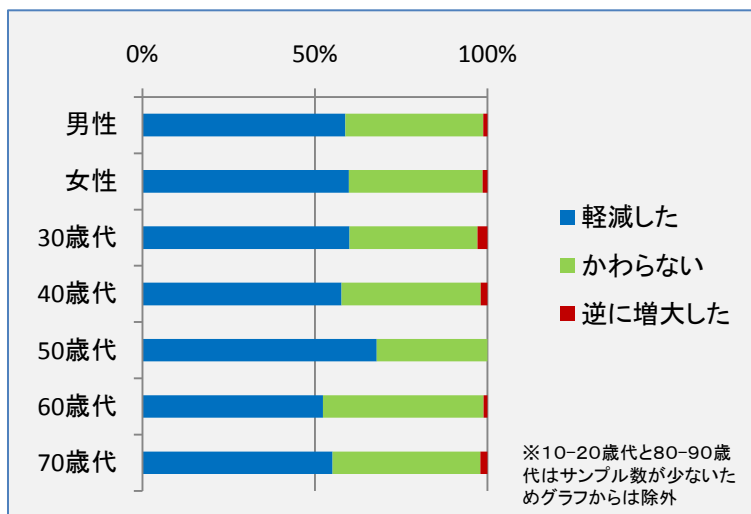


5. (前々問で、「十分に相談した」「まあまあ相談した」「あまり相談しなかった」の回答者のみ)  
「がんと診断された直後」に、誰かに相談することで、悩みは軽減したと思いますか。

悩みを相談した人は、果たして効果があったのだろうか。

6割程度の方が、相談した甲斐があったとしている。逆に4割程度の方は、悩みに変化はなかった。相談することによって逆に悩みが増大してしまった人は、ほとんどいない。

	軽減した	かわらない	逆に増大した	計
男性	57%	42%	1%	100%
女性	62%	37%	1%	100%
10歳代	-	-	-	-
20歳代	50%	50%	0%	100%
30歳代	59%	38%	3%	100%
40歳代	58%	40%	2%	100%
50歳代	71%	29%	0%	100%
60歳代	51%	49%	0%	100%
70歳代	54%	43%	3%	100%
80歳代	100%	0%	0%	100%
90歳代	-	-	-	-
合計	59%	40%	1%	100%



## 【調査結果の詳細】（“患者本人 x 現在”編）

### 1. 現在、どんな悩みを抱えていますか。（複数選択）

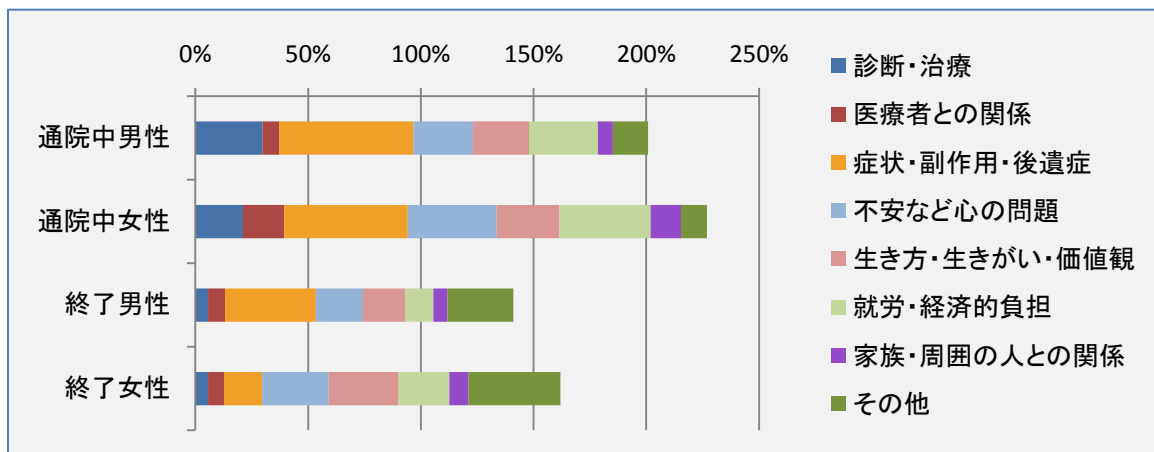
現在は、どんな悩みを持っているのだろうか。告知直後の同じ選択肢で聞いたものを、「外来通院中」の人と「治療終了」に分けて確認した。（注：「入院中」回答者は数が少ない（前出）ために、クロス集計しなかった。）

「診断・治療」「不安など心の問題」「家族・周囲との関係」で悩む人が大幅減少する一方で、「症状・副作用」「生き方」で悩む人はやや増加する。

なお、治療終了すると悩む内容が大幅に減少するが、逆に言うと治療終了しても男性で54%、女性で30%の人が「診療に関わること（選択肢1～3）」の悩みを抱き続け、特に男性は「症状・副作用・後遺症」を悩む人が多い。

1. 診断・治療	= 治療法選択、手術や検査への不安など	診療に関わること
2. 医療者との関係	= 医師や看護師とのコミュニケーションなど	
3. 症状・副作用・後遺症	= 症状や副作用、後遺症などの身体的苦痛	
4. 不安など心の問題	= 将来不安、死の意識、動揺・絶望感、抑うつなど	診療に関わらないこと
5. 生き方・生きがい・価値観	= 人生観、外見変化ストレス、自分らしさ変化など	
6. 就労・経済的負担	= 医療費、収入減、仕事への影響、蓄えなど	
7. 家族・周囲の人との関係	= 周囲の反応、孤立感、家族との関係変化など	
8. その他	= その他	

	診断・治療	医療者との関係	症状・副作用・後遺症	不安など心の問題	生き方・生きがい・価値観	就労・経済的負担	家族・周囲の人との関係	その他	計
通院中男性	30%	7%	60%	26%	25%	31%	7%	16%	201%
通院中女性	21%	18%	55%	39%	28%	40%	13%	12%	227%
通院中全体			96%				104%	14%	213%
告知直後比	大幅減	減	増	大幅減	増		大幅減		
終了男性	6%	8%	40%	21%	19%	13%	6%	29%	141%
終了女性	6%	7%	17%	30%	31%	23%	8%	41%	162%
終了全体			46%				69%	33%	148%



## 2. 現在のあなたの悩みのうち、「一番大きいもの」は何ですか。

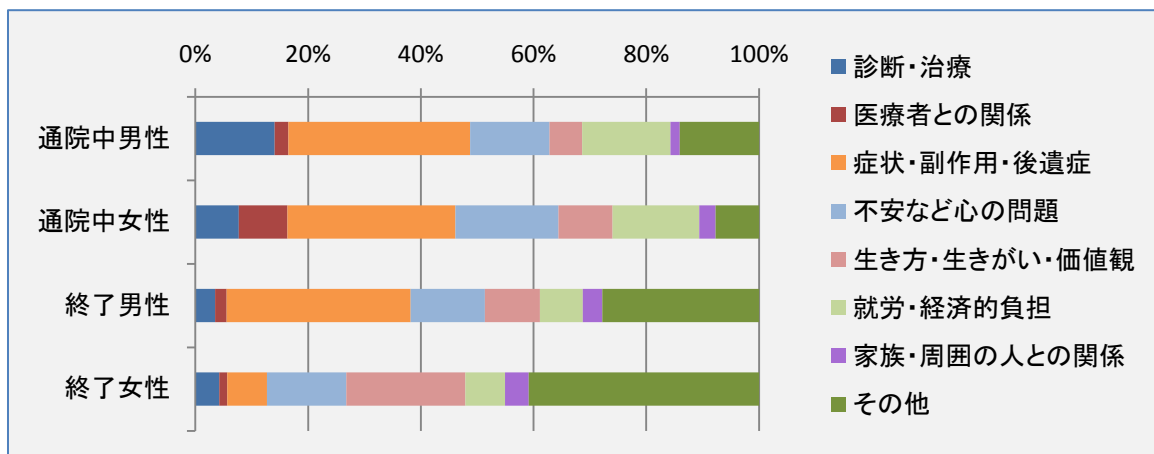
現在の最大の悩みを確認すると、通院中患者では「症状・副作用・後遺症」が1位であった。また、「生き方・生きがい」「就労・経済的負担」などを悩む人も増える。なお女性だけ、「医療者との関係」に悩む人が大幅増加するのは注目に値する。(注:「入院中」回答者は数が少ない(前出)のために、クロス集計しなかった。)

「診断・治療」「不安など心の問題」「家族・周囲との関係」で悩む人が半減する一方で、「症状・副作用」「生き方」で悩む人はやや増加する。

なお、治療終了したグループでは、「診療に関わらないこと(選択肢4~7)」や「その他」の悩みが最大になる人が多い。

1. 診断・治療	= 治療法選択、手術や検査への不安など	診療に関わること
2. 医療者との関係	= 医師や看護師とのコミュニケーションなど	
3. 症状・副作用・後遺症	= 症状や副作用、後遺症などの身体的苦痛	
4. 不安など心の問題	= 将来不安、死の意識、動揺・絶望感、抑うつなど	診療に関わらないこと
5. 生き方・生きがい・価値観	= 人生観、外見変化ストレス、自分らしさ変化など	
6. 就労・経済的負担	= 医療費、収入減、仕事への影響、蓄えなど	
7. 家族・周囲の人との関係	= 周囲の反応、孤立感、家族との関係変化など	
8. その他	= その他	

	診断・治療	医療者との関係	症状・副作用・後遺症	不安など心の問題	生き方・生きがい・価値観	就労・経済的負担	家族・周囲の人との関係	その他	計	
通院中男性	14%	2%	32%	14%	6%	16%	2%	14%	100%	
通院中女性	8%	9%	30%	18%	10%	15%	3%	8%	100%	
通院中全体	48%							41%	11%	100%
告知直後比	大幅減		大幅増	減	増	増		大幅増		
終了男性	3%	2%	33%	13%	10%	8%	3%	28%	100%	
終了女性	4%	1%	7%	14%	21%	7%	4%	41%	100%	
終了全体	30%							38%	32%	100%





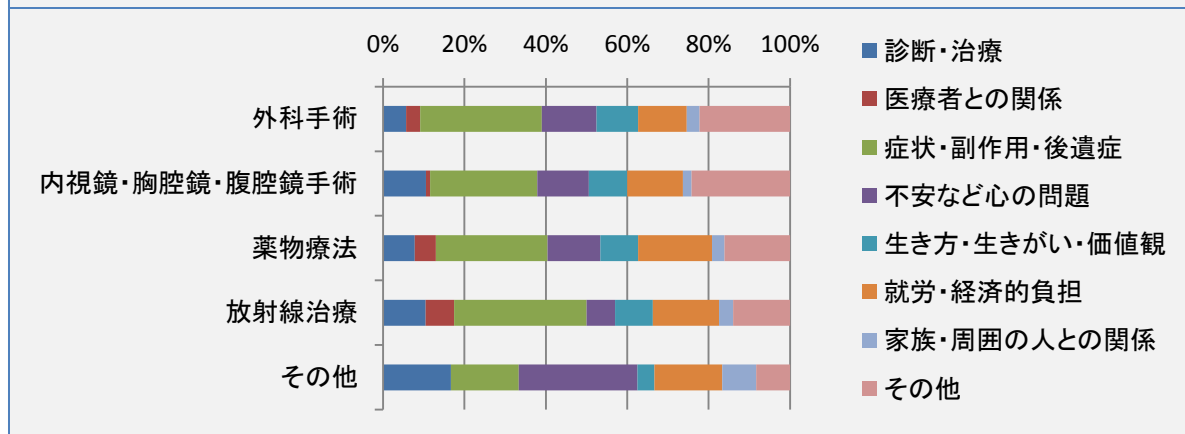
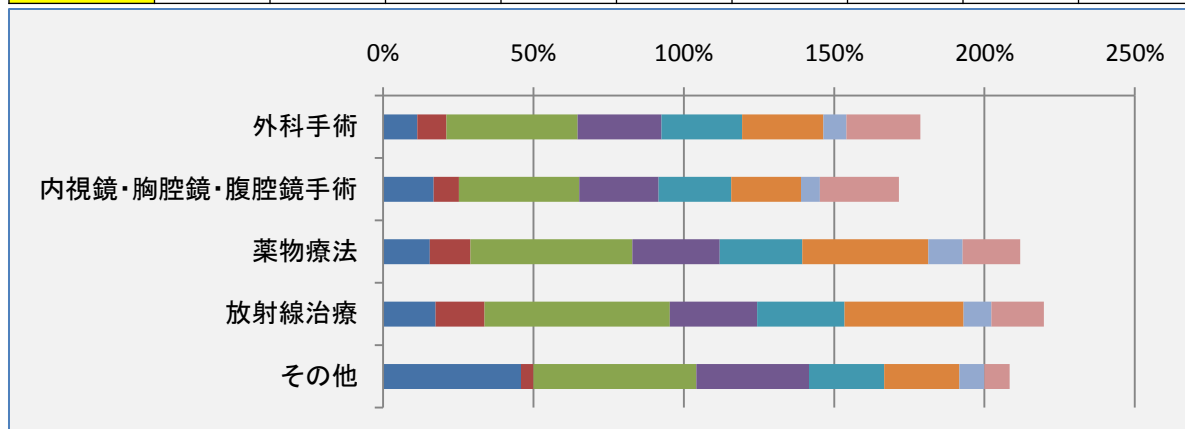
## 2. 現在のあなたの悩みのうち、「一番大きいもの」は何ですか。(つづき:「治療内容別」)

前々問、前問の回答傾向は、治療内容別で異なる傾向が見られた。すなわち、「内視鏡等≦外科手術<薬物療法<放射線」の順で、「診療にかかわる悩み」を抱える人が少ない。特に「内視鏡等」治療を受けた患者は、ほぼ全ての悩み種類において、悩む人が最少である。

注: 調査票上での実際の表記は、「内視鏡等」=内視鏡・胸腔鏡・腹腔鏡手術、「放射線」=放射線治療

あてはまるもの全て	診断・治療	医療者との関係	症状・副作用・後遺症	不安など心の問題	生き方・生きがい・価値観	就労・経済的負担	家族・周囲の人との関係	その他	計
外科手術	11%	10%	44%	28%	27%	27%	8%	25%	179%
内視鏡等	17%	8%	40%	26%	24%	23%	6%	26%	172%
薬物療法	16%	13%	54%	29%	27%	42%	11%	19%	212%
放射線	17%	16%	62%	29%	29%	40%	9%	17%	220%
その他	46%	4%	54%	38%	25%	25%	8%	8%	208%
合計	15%	11%	48%	28%	27%	32%	9%	22%	192%

最大のもの	診断・治療	医療者との関係	症状・副作用・後遺症	不安など心の問題	生き方・生きがい・価値観	就労・経済的負担	家族・周囲の人との関係	その他	計
外科手術	6%	3%	30%	13%	10%	12%	3%	22%	100%
内視鏡等	11%	1%	26%	13%	9%	14%	2%	24%	100%
薬物療法	8%	5%	27%	13%	9%	18%	3%	16%	100%
放射線	10%	7%	33%	7%	9%	16%	3%	14%	100%
その他	17%	0%	17%	29%	4%	17%	8%	8%	100%
合計	8%	4%	29%	13%	10%	14%	3%	19%	100%

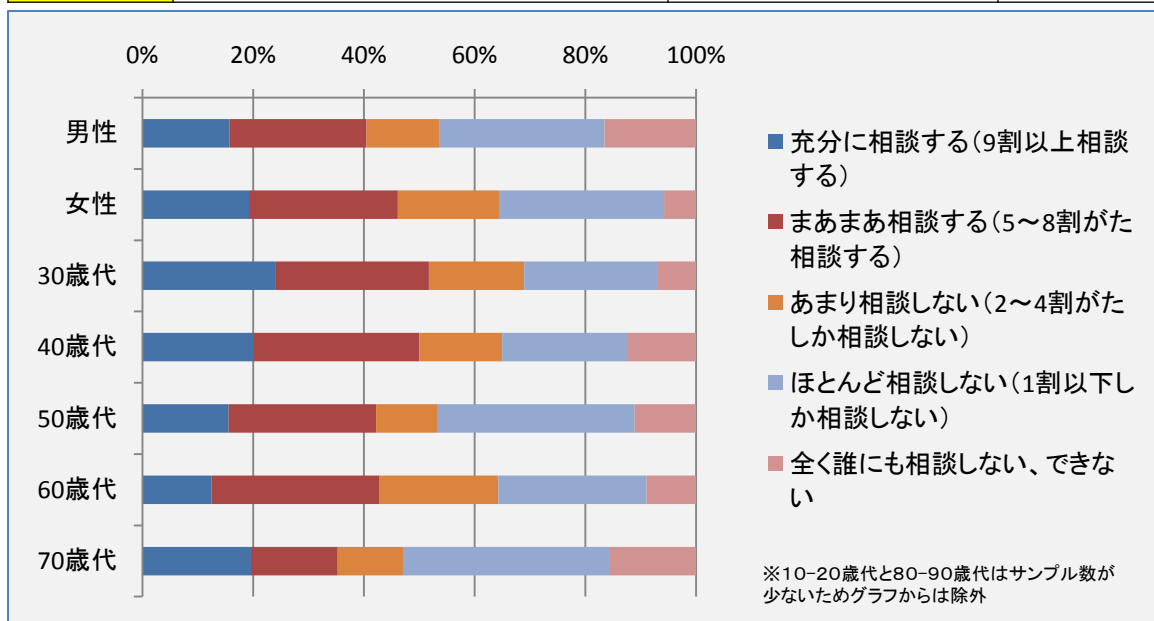




### 3. 現在、悩みをどの程度、家族など他の人に相談していますか。

告知直後に比べ、時間が経過すると、悩みは相談しなくなる。以下は「通院中」の患者のみ（治療終了グループは含まれていない）で集計したものだが、「十分に」「まあまあ」「あまり」が軒並み減少して、その分「ほとんど相談しない」割合が増えている。これは、男女に共通の現象である。

通院中の患者のみ	十分に相談する(9割以上相談する)	まあまあ相談する(5~8割がた相談する)	あまり相談しない(2~4割がたしか相談しない)	ほとんど相談しない(1割以下しか相談しない)	全く誰にも相談しない、できない	計
男性	16%	25%	13%	30%	17%	100%
女性	19%	27%	18%	30%	6%	100%
10歳代	-	-	-	-	-	-
20歳代	0%	25%	25%	25%	25%	100%
30歳代	24%	28%	17%	24%	7%	100%
40歳代	20%	30%	15%	23%	13%	100%
50歳代	16%	27%	11%	36%	11%	100%
60歳代	13%	30%	21%	27%	9%	100%
70歳代	20%	16%	12%	37%	16%	100%
80歳代	-	-	-	-	-	-
90歳代	-	-	-	-	-	-
合計	17%	26%	16%	30%	12%	100%
			59%		41%	100%

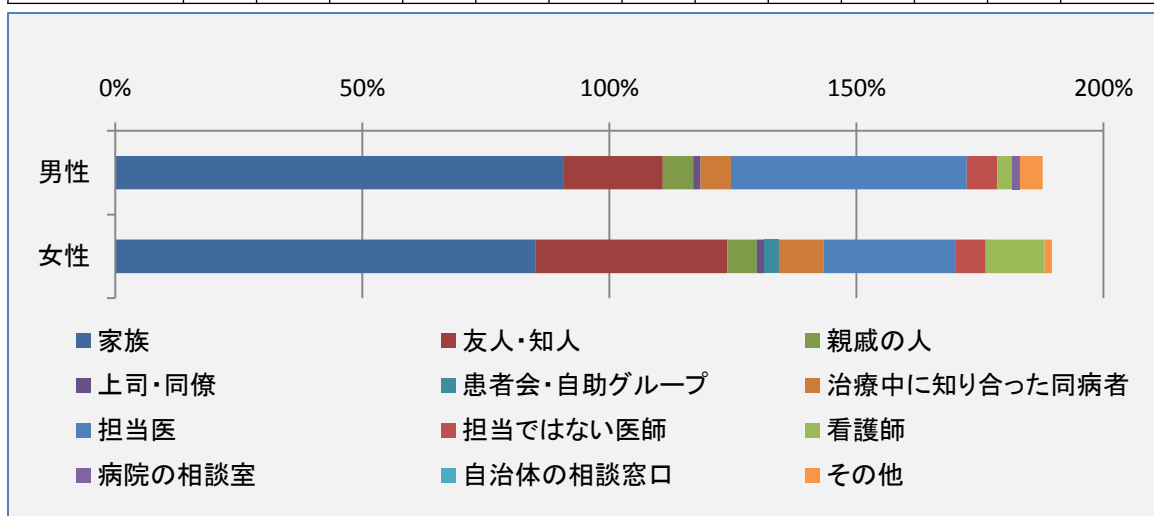


4. (前問で、「十分に相談する」「まあまあ相談する」「あまり相談しない」の回答者のみ)  
**現在、あなたが悩みを相談する相手は誰ですか。(複数選択)**

現在、悩みを相談する相手を、「通院中」の患者に限定して集計した。(「治療終了」患者は医療関係窓口へのアクセス状況が異なるが、それが選択に強く影響してしまうため、集計から除外した)

がんと診断を受けた直後に比べて、「親戚」「上司・同僚」「患者会」が減少し、「友人・知人」が増加する。一方で、「担当ではない医師」「看護師」に相談する人が増えており、時間とともに医療者と広く濃く接触するようになる様子が伺える。

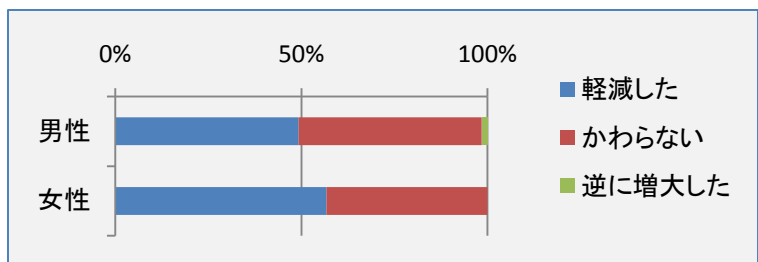
	家族	友人・知人	親戚の人	上司・同僚	患者会・自助グループ	治療中に知り合った同病者	担当医	担当ではない医師	看護師	病院の相談室	自治体の相談窓口	その他	計
通院中男性	91%	20%	6%	2%	0%	6%	48%	6%	3%	2%	0%	5%	188%
通院中女性	85%	39%	6%	1%	3%	9%	27%	6%	12%	0%	0%	1%	190%
告知直後との比較		増	減	大幅減	減			増	増				181%



**5. (前々間で、「十分に相談する」「まあまあ相談する」「あまり相談しない」の回答者のみ)  
現在、誰かに相談することで、悩みは軽減していますか。**

相談効果は、告知直後の時に比べて、下がっている。「通院中」患者に絞って集計すると、もともと相談する割合が減る(前々問の結果)が、さらに相談した人の効果実感が、特に男性で下がっている。効果が薄れているために、相談する率も下がるという、相互に原因結果の関係にあるのだろう。

	軽減した	かわらない	逆に増大した	計
通院中男性	49%	49%	2%	100%
通院中女性	57%	43%	0%	100%
告知直後との比較	減	増		



## 6. あなたの、過去/現在の悩みを少しでも和らげるためには、何があったら良いでしょうか。

自由にアイデアなどを記載してもらった。文字数が多い順に約60コメントを以下に掲載。

年代	性別	部位	治療内容1	治療内容2	治療内容3	コメント
40歳代	女性	乳房	乳房部分切除	抗がん剤： エンドキサン、タキソ テールホル モン剤：ノル バテックス、 フェマール		担当医による的確なアドバイス。一緒に頑張っていこう・と言われるだけでも前向きになれると思う。具体的にどうしていくのかをスケジュール表のようなものを作って、薬、副作用の出方、体調、自分の気持ちなどが書き込まれるようなものをつくって欲しい名医だからといって、良い人とは限らない。聖路加病院だったか忘れましたが、ある医師は、一人一人の性格にあわせて、優しく対応を覚えておられました。相手の心になる。色んな人がいるので、難しいですが、「笑顔」「優しさ」「人の身になる」事で、患者はとも救われず頑張りうという気になります。いくら名医でも、治してやったとか、副作用が出たときに、「我慢しろ」というだけでは、ストレスがたまり、症状がもっとひどくなります。医師もこれからは心理学も勉強する時代になってきているのではないのでしょうか？病は気から・その通りだと思います。前向きな気持ちで免疫力をあげてくれますから。示して貰える担当医以外でも無料で受けられる医師や緩和ケアーによる相談 くすりの副作用が出たとき
70歳代	男性	大腸・直腸	S状結腸ガン摘出手術			やはり家族との親密なコミュニケーションが、一番だと思います。身近な家族に本当の気持ちや、打ち明けるのが大切。所詮他人さまは、親身になって考え、行動を起こしてはくれない。手術後、10年以上にもなりますが、今でも手術の傷跡がケロイド状に残り(担当医は体質的なものという)、天候が崩れる時は痛みがでる(天気予報よりも当たります)。下腹部の傷跡は、温泉などに入る時にジロジロ見られることが多く、男子でもチヨット恥ずかしい気がする。したがって友人には、最初からガンを切った跡だと見せてしまう。もうひとつは、今でも再発の恐怖があることです。こればかりは、何んとも云いようのない怖さです。
50歳代	女性	大腸・直腸	腫瘍の切除と人工肛門			ガンになる前から老親(寝たきり、認知症)の介護が忙しく、ガンになっても病気のことで悩むヒマはなかった(笑)。悩んだのは、入院手術中に老人をどうしよう(預け先等)かということだけ。病後、すべて自分を優先にする生き方に変え、月に4~5日老親を放り出し(ショートステイさせ)、好きな旅行を楽しみ自分を癒す生活に切り替えました。介護で働けないため、株に投資して旅行資金を確保していましたが、突然の不景気で資金確保が難しくなり、それが今の悩みです。この悩みを和らげるために、日頃からプラス思考を心がけています。まア、なんとかなるさ・・・とね。
30歳代	女性	子宮	子宮頸部切除術			一番大きな悩みとして当時考えたことは『妊娠・出産』です。いくら「子宮頸部上皮癌」と言っても、私の場合は子宮口1cm近くまで範囲が広くて、再発の可能性が当時5分5分でした。最低5年間は妊娠はしてはいけないと言うことを医者から言われ、ずっと我慢してきました。今でも正直「妊娠」には不安を抱えています。この事から当時の事を思い返せば、実際に経験された方からお話を伺うことが(=カウンセリング)出来れば、当時の不安感は軽減されたかもしれないです。
40歳代	女性	乳房	乳房温存手術(扇状部分切除術)	ホルモン療法と化学療法は遠隔転移後に実施。【ホルモン療法】アミテックス、アロマシン、フェラストン、ヒルソンド【化学療法】EC、タキソテール、ゼロダ	放射線は術後すぐに乳房温存手術後の照射を実施(50G/レイ)転移後は、骨転移していて痛みが出た箇所に照射	術前で治療法の選択等の悩みについては、ガイドラインがあるので解決されてきていると思うが、まだまだ知名度は少ない。ガイドラインの解説はわかりやすく明記している反面、内容は医療者向けと違って詳しくないので、あまり参考にはならない気がする。今後は、化学療法における第3次以降の治療法の情報が少ないので、もっとインターネットやガイドラインの解説で明確に情報提供して欲しい。あとは、ガン治療の医療費をもっと安価にするための対策を何かして欲しい。
60歳代	女性	乳房	左乳房全摘手術	シクロフォスファミドフルオロウシル塩酸エビルピシンバクリタキセルアナストゾール(アミテックス)		医療面では、充分に時間をかけて医師や看護師に相談できること。また、セカンドオピニオンの存在。生活面では、家族や友人の支え。(私の場合は夫の介護をしていたので、親・兄弟、友人たちのサポートが大変ありがたかった。)経済面では、安心して治療を受けられる経済的援助の制度を国が補償してくれること。医療・生活・経済のすべてにわたって、国ががん患者を全面的に支援する制度を抜本的に作る必要があると思う。(たとえば、フランスの例などを参考に。)
30歳代	女性	子宮				24時間、365日、必ず繋がる電話相談窓口があってほしい。深夜、突然不安になったが、家族や友人を起こすのもためらわれ、「いのちの電話」に電話をかけたものの、24時間ではないものが多く、またいくらかけても話中だった。全国の「いのちの電話」にかけ、どこも繋がらず話中なのが分かった時、不思議と落ち着くのを感じたが(苦しんでいる人が私の他にもたくさんいると感じ、孤独感が薄れた)、電話が繋がっていただくと救われたかもしれない。

## 6. あなたの、過去/現在の悩みを少しでも和らげるためには、何があったら良いでしょうか。

40歳代	女性	卵巣・卵管	開腹手術(両側の卵巣、卵管、子宮、大網の切除とリンパ節郭清)	タキソテール、パラブリン	孤独感が今でも、とても強いです。だから、気を紛らすためにも、仕事に戻り、仕事仲間と冗談を言ったりする。生きているんだと実感する。私みたいに初期のがんだと言われていても、一人になると、うつ気味になる。そうならないために、同じ経験をした人のサークルに入って、お話ししたり、まだ、がんにかかっていない人のために、検査の必要性を唱えたりする場があるといいなと思います。	
40歳代	女性	子宮	子宮ガンで広域手術		私は再婚しましたが今の旦那との子供がもうけられないことがつらいです。旦那の実子がない。このすばらしい旦那のDNAは残したいけど私にはできない。卵巣は悪いところだけ切り残しました。卵子は作れます。しかし、日本では他人の子宮を借り子供を作るのは許可されてなく残念です。又海外で行ったとしても費用がかかるし実子と認められない。	
60歳代	男性	膀胱	内視鏡にて手術		定年後のため仕事に就いての悩みは無かった。転移については、3ヶ月に一度検査に行っているので心配は無いと思っているが、再発と言われた場合自分の気持ちはどう変化するか不安はある。私の場合、以前から続けているボランティア活動(主に障害者を対象にした活動)を続けることにより、社会貢献をしながら自分が楽しめる方向に持って行くこと。	
60歳代	男性	胃	胃ガンのため胃摘出 肝細胞癌のため肝臓摘出 肺気球の手術	肺気球	C型肝炎と診断されて21年・ガン手術後今、肝臓内科の先生と出会った。23年前、胃ガンの手術をして、その際C型をもらったのかと思ったが、胃ガンの手術の血液製剤は使用しないで、返品したといわれました。20年弱まよインターフェロンを投与してもらったけれどウイルスは消えませんでした。やはり、感染経路が知りたいです。	
30歳代	女性	その他			がん患者の痛みを和らげるような緩和医療がもっと充実すればよいと思います。保険診療(保険点数)重視ではなく患者が望めば保険適応外の薬や点滴でも積極的に紹介してほしい。また抗がん剤や点滴は夜流してもらえれば、ストレスが少しは軽減すると感じました。お屋の一番体が起きていた時だと、副作用も激しく感じました	
70歳代	男性	前立腺	根治的全摘出手術	リュープリン(3ヶ月おきに皮下注射実施中)カソデックス(約3年間服用後中止)オダイン(約6ヶ月前より服用中)	前立腺がんの場合手術後も血液検査のPSA値を基準として投薬が進められているが、そもそもPSA値が上がる原因が何なのか検査で解明されているわけではない。骨シンチ等全身検査しても転移場所等が解明できないので不安である。明確に原因を解明する検査方法と適切な治療法が開発されるべきではないかと思っている。	
40歳代	女性	胃	胃がん・2/3胃摘出手術乳がん・乳房温存手術	胃がん・抗がん剤(注射と投薬)乳がん・ホルモン剤(ノルバデックス)	乳がん・左胸25回照射	同じような状況の人のブログを見て、ホルモン剤の副作用の症状などが同じだと、解決にはならないけど安心できた。乳がんに関するわかりやすく詳しいサイトで色々勉強できた。人に話すのも一案だが、悩む時は深夜や一人の時間が多いため、ネット上で悩みの相談を聞いてくれたり答えてくれるサイトがあるといいと思う。
70歳代	男性	前立腺	カソデックス	正式名称は分からない土日を除き全39回(毎日)	同病の友人それぞれ共通のものもあればそれ以外の違いのほうが大きいことに気がついた。摘出手術をしたあとの併発病(尿漏れ、肛門の異常など)が付随するのは大変。自分の場合は放射線治療なのでかなり違うが被爆による腸の異常があれば・・・心配だが今のところまだ検査前なのではっきりしたところは分からない。	
60歳代	男性	前立腺			僕は幸い前立腺手術をデンキメスにより削りとった115片のうち3個にがん細胞が見つかりましたとのことで担当医はまず削りとられたのではないかとのことです、結果3カ月に1度血液検査を受けるとのことです現在5年目となりますがPSAは6-8位でいますからOkとのことですので のんきしています。	
60歳代	男性	前立腺	喉頭がん(声門ガン)を昨年の見つかり放射線治療する。標準分割で33回で60グレイ通院治療しました。又今年8月に前立腺ガンにて、10月より37回70グレイの外照治療をしています。		ガン治療を通院で対応しているが、家族と友人に て話しをして、他の兄弟と親戚に言わずに治療していることが悲しかった。(ガンである事が言えない) 担当員の診断時、治る確率が高く大丈夫といわれた時に、よかったと思う。 ガンで通院されている患者同士の懇談する場所と、機会があればよいとおもった。	
60歳代	男性	咽喉頭・喉頭	バレット食道・腺癌		診断が日本では珍しい病名(バレット食道腺癌)であり知識も無く、五年生存率も25%と低い為、又食道切除と言うことで声帯への影響や今後の生活に不安があったが担当医より術後良く説明を聞き病巣完全切除、術後の抗がん剤不使用の説明で安心した…医師の説明により患者は不安にも安心にもなる。	



## 6. あなたの、過去/現在の悩みを少しでも和らげるためには、何があったら良いでしょうか。

40歳代	女性	乳房	乳房全摘出手術、乳房再建術	ノルバデックス		突然の宣告で、本当ににも考えられなくなる状況だった。今は時の流れとともに現状を受け入れられるし、むしろ以前より前向きに生きている気がする。現在はホルモン治療の後遺症が辛いのが宣告された時に比べたらなんの問題もない。病気に関しての悩みを和らげるのは結局ただ一つ「時間」だと思う。
60歳代	女性	乳房	乳がん	フエラストン40		内科から外科に回って診察してもらった時から医師は間違いないとガンであるということ、後から言った心配があるので治療に行っているのもう少し親身になって欲しい。聞いたことで二度とは言わない主義だかも知れないが旦那に言ってあるので話をずらす。聞いた内容を話して欲しい
50歳代	女性	乳房	右乳房全摘手術	抗癌剤(EG)ホルモン療法(フェマーラ)		近辺に乳がん患者の為の会があれば、困った事や聞きたいことがあれば直ぐに相談出来るのにとつくづく思っている。一人で悩んでネットで調べたりしても、実際に医療に関わっているドクターの言葉や同病者の言葉より勝る事はない。患者の言葉に耳を傾けてくれる場所が欲しい。
60歳代	女性	乳房	右乳房摘出			術後10年近く右腕のむくみ、傷跡の圧迫感があった。つらいのは乳房がある感覚がしたり、かゆい時のもどかしい感じは、現在30年近くたっても思い出す。1年以上過ぎた時、人に病状を話せた時から気分的に落ち着いた。だが、傷跡は誰にも(主人にも)見せたことがない。
70歳代	男性	胃	胃の1/2(上部)開腹切除摘出手術。			術後10年近くになるが腸閉塞を7回発症している、間隔も近くなり又食べ物、食べ方等には医師の指導どおり注意しているし適度の運動もしているが何時発症するか心配の毎日です。幸いガンそのものの再発は今のところ無いようなので少しは安堵しているところ。
30歳代	男性	その他	開胸術	プレオ。ラステッド。ランダ。	脳照射	がん＝死そう考える人が多すぎる。かつての私もそうだったので仕方がないと思うが『がん』にならないと解らない部分は非常に多い。社会復帰するにも、その解らない部分が非常に高い壁になる。もっと理解するべきだ。誰でも『がん』になる可能性は高いのだから。
50歳代	女性	大腸・直腸	開腹手術			癌は治っても、再発やまたなり易い心配が有ります。現に違部位にも出ました。だから、定期健診を受けていますが、胃カメラ、大腸ファイバー等は費用が掛かり、苦痛が伴うので、痛くない検査を安い費用で受けて、異常が無い事を毎年確認できれば、安心です。
60歳代	女性	乳房	乳がん手術			乳がん手術時は仕事を抱えており、1年間生きられれば仕事に支障が軌道にのると思いき医師に何があっても1年間生きられるようにして欲しいとお願いしました。乳がんの宣告を受けた時は、これを天命と思いがままの状態を受け入れようと決心しました。
40歳代	女性	乳房	胸筋温存左乳房切除術	CEF(シクロホスファミド、エビルピシン、5-FU)12クール(半年間、1週、2週に点滴、3週と4週は休み。)ホルモン療法として、6年間タモキシフェンを服用。		自由に相談できる窓口。話を聞いて、自分の気持ちを受け止めてくれれば、それだけでうれしい。あと、がんについて周りの方々の知識のなさと、無理解に苦しむ。学校でも、子供たちになんという病気についての知識を教える機会があれば、いいのですが。
60歳代	男性	肺	解らない			なかなか早めに癌を見つける、と言われるが健康診断を昔は奨励していなかったし、大きい会社は健康診断をしているが、小企業は出来ないから個人で受けなければならず身体をこわさなければ病院も個人病院で終わり簡単に見つからず気がついたときは遅い
70歳代	男性	胃	初期の胃がんで、三分の二を切除した。			再発、転移などしないか不安であり、予防のため自分なりによいと思う漢方薬を飲んでる。普段はガンの手術をしたことは意識しないように勤めている。従って、飲食(食事は量は食べれない)、趣味のゴルフなど以前と変わらない生活をしている。
40歳代	女性	乳房	乳がん 右乳房全摘出手術	抗がん剤 アドレアマイン タキソ テールホルモン剤 フエラストン アリミテックス		とにかく安心して何でも話せる場所、聞いてくれるところがあると気持ちが楽になる。それが、たとえ解決にならなくても、話す事でストレスが発散される。特に、家族の前では、なげずにいた自分でも、思い切る泣けるところがあると安心する。
50歳代	女性	肺	ガンの摘出手術			無料で心の内を話せる機関。医療関係者の心ない説明の仕方など、苦情を言える機関。昔のように医者が絶対ではなく、患者がジャッジ出来るようにすれば、金儲けの医者、人間味のない機械的な医者など・・・減っていくのではないのでしょうか？
70歳代	男性	胃	胃の初期がんで1/2を切除 幽門付近			発見が早期でレベルの低い初期癌で完治の確率の高い回復手術を選択し1年に1回内視鏡検査を行い現在は快適な生活をしていますので特に悩みはありません手術後も担当医と健康管理等のお話の出来るchannelを持つ事が大切に思います

## 6. あなたの、過去/現在の悩みを少しでも和らげるためには、何があったら良いでしょうか。

30歳代	女性	乳房	乳房温存術、子宮内膜症の開腹手術	子宮内膜症の腹腔鏡手術	タスオミン(タモキシフェン)	がんにかかってしまっても、友人のほとんどはいつも通りに接してくれましたが、一部の友人との接し方が難しくなったり、何となく自分から距離を置いていた時期がありましたが、ネット上で同病の仲間と話したりして、励みになりました。
60歳代	男性	胃				今 詳細検査中 先生の話では、内視鏡で切除が出来るとの話だったが、癌の深さがどれ位あるか又他に転移など無いか？癌が胃の入り口と下の方にも有り、胃の切除も有りうる？らしい。自分としては 良い方向に向かうと信じるのみ。
70歳代	男性	胃	腹腔鏡手術			兄弟5人が胃がんで亡くなっており、もしかしたら自分も？と言う不安がないわけではないが、何らかの趣味を持ち、それに打ち込めるもの、或は楽しみに没頭できるものがあれば、その不安も多少は軽減できるのではと思っている。
70歳代	男性	肺	右肺 下1/3を切除	抗癌剤服用4クール		同病相哀れむ=PCメール通信趣味を生かす=俳句・写真(仲間作り)生きる目的の創造=ライフワークへの取り組み愉快な仲間(飲む・歌う・食べる)=笑う仲間独り生活につき 孤独の陥らぬよう 会話のある生活を心掛けている
70歳代	男性	骨髄腫	リツキサン・ラテルピシン・ビンクリスチン・シクロホスニド・フルドニゾン・エンドキサン・シクロフォスファミドなど			病気の性格上、寛解はあっても完治はないので、いつ再発するか又感染症に弱い体質になっているので、今流行しつつあるインフルエンザに対する不安は大変大きい。余り人混み(繁華街)などに出入れない不満も否定できない。
70歳代	男性	膀胱	膀胱および前立腺の開腹全摘出術 以後の尿処理は回腸導管によるストマーからパウチへ蓄尿			手術後4年腹部大動脈瘤の交換手術に際し 各部検査の過程で小さな胃がんが発見され 内視鏡による削除手術を受けた 今 1年後の内視鏡検査を予定している 膀胱がんの方は異常なく5年経過目前となっている
60歳代	女性	大腸・直腸	直腸がん15センチ切開しました	腸に出来ているポリープ3を内視鏡でとりました		直腸癌で15センチ短くなり、幸いにも袋を提げることなく済みましたが、便のたまるところが短くなり、もよおすと短時間に何回もトイレに行かなくてはならず、外出時はこまっています。調節ができれば・・・
40歳代	男性	大腸・直腸	名称まで覚えていない	腹腔鏡手術	点滴治療と投薬治療	就労の問題・癌と診断されてから会社に話した所上司からの言葉が情けなかった。就職を探しても病気の事を話すと採用を見送られているかんじがする。このままでは、収入がないのでこの先が不安である。
40歳代	男性	胃	KIT陽性消化管間質性腫瘍(悪性)			今飲んでる薬『グリバック』の耐性になる時期についてです。(この薬の飲み続けて数年たつと、薬の効果が効かなくなる『耐性』です。)すでに飲んで3年がたち、まもなく、効かなくなる時期が心配です。
60歳代	男性	前立腺	内視鏡術の際の出血による緊急術(筋肉出血の止血のため)。	前立腺全摘出術	リュープリン(1か月および3か月用)	前立腺全摘出術後、尿漏れがなくなる時期がいつごろになるのか、具体的な統計データが手軽に見られれば少しは安心・諦めがつくと思う。(担当医は個人差があるから・・・と、言うだけなので不安がある。)
60歳代	女性	甲状腺	右甲状腺摘出手術			年金生活になり、生涯欠かせない薬代の負担。身体へのけだるさ、しんどさを医者に訴えても、他の癌患者よりも甲状腺癌の場合は何か軽く見られているように思えて、そのしんどさを理解してもらえない。
30歳代	女性	子宮	円錐切除			先生が忙しすぎて連絡が取りづらかったので、専門知識や経験のある人へ、薬や病気について、予防について、保険について、など気軽にメールなどで相談できるようなサービスがあればありがたいです。
50歳代	女性	乳房				入院中、通院中病気に対する説明は、先生にさせていただきとして、手術経験者の話や快癒された方の予後のお話などが聞くことのできるシステムがあると、心の不安などある程度緩和されるのではと思う
70歳代	男性	胃	正確には不明ですが「左原発性肺癌」らしいです。			問題が後遺症なので、自分で実行可能な軽減手段等の方策を、簡単に検索し見い出せる手段。例えば、インターネットによるキーワード入力検索、適切な相談窓口、地域相談員などが考えられます。
70歳代	男性	胃	開腹手術	内視鏡による摘出		結局は自分自身の問題でありあまりクヨクヨしない。同病と知った時は自分の経験を話し励ます。例えば入院中でも髭そりなど身だしなみに気をつけて見舞客、家族にも病人らしく振舞わない。

## 6. あなたの、過去/現在の悩みを少しでも和らげるためには、何があったら良いでしょうか。

70歳代	女性	口腔・舌	下顎歯肉癌 気管切開・リンパ節郭清・頸部郭清術・下顎辺縁切除・再建術(移植)		同じ悩みを抱えている人たちとのかわりあい。信用できる機関から指導された適切な対処法。たくさんの情報がある中で、国など営利目的でない信頼できる情報源を確保できること。	
30歳代	女性	乳房	左乳房切除	タキソテール	診察時の相談、説明をきちんと報酬対象にし、十分な説明を求められる体制を整えて欲しい。患者側の思いとは裏腹に、意外と医師側は自分では十分な説明をしていると勘違いしている	
50歳代	女性	胃	定型術(全摘出:胆嚢を含む)		夫が医師ではないが癌も専門の基礎医学・理工学関連の研究者で医師より詳しい。言うことはきついが、信頼すれば逆に不安が消える。いざとなればのために何か持っているという。	
50歳代	男性	腎臓・副腎	?		経過観察は画像診断のみで触診は一切しないため、不安である。画像で問題なくても触診などを省略しないでしてもらえることにより多少の不安は解消されるのに・・・と思う。	
50歳代	女性	乳房	乳癌根治術 乳房部分切除	FEC療法(フルオロウラシル、エピドキシシ、シクロホスファミド)タキサン療法(パクリタキセル)ホルモン療法(タモキシフェン)	左乳房照射(50Gy / 25fr / 5w)	治療の後遺症(私の場合、パクリタキセルによる末梢神経障害)は、見過ごされがちであるが、よりよい対処法や、苦痛を和らげる薬剤などが、もっと開発されると助かると思う。
30歳代	女性	乳房	乳房悪性新生物除去術温存	ゾラテックスオミン(ノルバテックスのジェネリック)	1回2.3分 ± 日を除く毎日照射 合計30回合計50ケレイ	ネットで他の人のブログなどはあまり見ないほうがよかったと思う。かえって心配が増幅した。お医者さんの講演や、克服した患者さんの座談会とかあれば出ればよかったと思う
40歳代	女性	子宮	子宮全摘出術		・担当医以外の医師(ある程度経験の長い医師や専門医)に気軽に相談できる窓口(電話での相談等)・病気に対する正確な情報・経験者に相談ができる窓口(電話での相談等)	
30歳代	男性	その他	シスプラチン、エトポシド	リニアックによる、胸部前後面照射	医師も、治療については前向きで詳しいが、後遺症については知識が乏しく前向きに見てくれないので、患者同士で後遺症の知識を共有できれば不安が治まるのではないかな。	
80歳代	男性	胃	胃袋切除3分の2		最新の治療法の情報が少なく、どの病院にどんな設備があるかもわからず困った。また良医の存在情報もなく、迷いながら手術に踏み切った。情報の入手先が欲しい。	
50歳代	女性	乳房	右オーテッククロス	エンドキサン・5FU・ファルモルピジンパクリタキセル	癌を経験した方の治療経過やその時の精神的に困ったことを聞けるところがあるといい。個人と個人でもグループでもどちらでもいいので医療機関や自治体であつたらいい。	
50歳代	女性	胃	胃の中心部を三分の二切除	名称はわかりません。	術後に抗がん剤を服用。内容と服用期間は覚えていません。	病院の枠を超えて、自分の一番納得できる手術法で施術できる情報提供と自由。自分の手術時にこの選択肢があれば、現在も続いている副作用を殆ど受けずに済んでいた。
60歳代	男性	骨髄腫			VAD療法	同病で親しくしていた人達が亡くなっていくので、話し相手が居なくなり、気持ちの安らぎが困難になった。患者の会などで悩みや症状などを話し合える場が沢山欲しい。
60歳代	男性	大腸・直腸	直腸ガン	大腸内視鏡検査		手術後食事は何でもいと医師に言われたが、栄養士と相談し食事はかなり厳格に制限している。最後に自分の体を守るのは自分しかない。現在はこれがうまくいっている。
60歳代	男性	大腸・直腸	内視鏡的早期悪性腫瘍粘膜切除手術			大腸内視鏡での腺腫癌発見、即手術(H21.7.)だったので現在、他の部位に癌があるのかをどのような調べ方(検査等)をしていったら良いのかが良く判らない。
30歳代	女性	乳房	左胸筋温存乳房全摘出術腋化リンパ節かくせい術		FEC(全4回中2回終了)次はタキサン系抗がん剤予定その後は放射線25回予定	信頼できる大切な人の存在。私の場合は夫です。彼がそばにいてくれるだけで悩みの多くは半減します。そして娘の日々の成長を見ていと長生きしなきゃと思います。
40歳代	男性	その他				“病は氣から起こる”との信念を持って、メンタルトレーニングをはじめたが、“ガン患者へのメンタルトレーニング”情報が少なくて困った。もっと情報が欲しい。



**7. 医療機関や医師が行ったことで、「診療に関すること以外の悩み」の軽減に役立ったことは何ですか。  
※「診療に関すること以外」とは、「不安など心の問題」「生き方・生きがい・価値観」「家族・周囲の人との関係」の悩みなどです。**

自由に記載してもらった。文字数が多い順に約60コメントを以下に掲載。

年代	性別	部位	治療内容1	治療内容2	治療内容3	コメント
30歳代	女性	子宮	子宮頸部切除術			卵巣脳腫から子宮頸部癌が発覚し、当時結婚していた夫にはちゃんと話が出来ず、主治医の先生にも夫には黙って欲しいといいました。その中で、当時の主治医とこの癌の仕組み再発の可能性今後の対応など色々話をさせていただき、先生に全てをお任せしました。もちろん妊娠出産のプランも先生に色々相談し随分軽減されました。
30歳代	女性	乳房	右皮下乳腺全摘			あるとしたら家族との関係。両親にとってガン＝死というイメージが強く、かなり神経質になっていたが、本人の私がどう説明してもそれは変わらず、術前の診察時に同伴したとき医師が両親に説明してくれた後は不安がなくなったようで、家族から何かせかさされたりすることがなくなり、私も精神的にだいぶ楽になった。
30歳代	女性	乳房	部分切除	シクロソフファミド、エピルビシン		麻酔担当の先生だけが「頑張らなくてよい」と言ってくれた。「これからあなたは色々な人に頑張られて言われるだろう。看護師も言うと思う。でも頑張らなくてよいから。むしろ頑張らないで。少しでも痛いとか不安とか全部口に出して言っていいますよ。」と手術前の面談で言ってくれた。それが心の支えだった。
60歳代	男性	膀胱	経尿道的膀胱腫瘍切除術			会社の検診で血尿3で精密検診したのですが、原因がハッキリせず何度かいろいろ調べ、最後に尿道から内視鏡を挿入、がん細胞が見つかったとき、担当医の先生が、「見つかってよかったね、宝くじに当たったと思えばいいんだよ」と言って慰めていただきました。単純なことですが気持ちが楽になりました。
70歳代	男性	骨髄腫	リツキサン・ラテルビシン・ビンクリスチン・シクロホスニド・ブルドニゾロンエンドキサン・シクロフォスファミドなど			お世話になった病院では医師だけではなく看護婦さん達のシステム機能や優しさなどが両輪になって非常によく対応してもらった。退院してから外来通院で一年以上経って現在は抗癌剤による治療は無くなっているが、通院検査は毎月行っている。心の問題は人格形成の一環と考えざるを得ない。
60歳代	女性	乳房	乳がん	フエアストン40		片側を全部取ったことで後で温存でも良かったと聞いて再建しようと思う気持ちに切り替えて家族の物に、気の済むまでさせて言い大学病院に通い一年かかり医師の許可が出て手術をすることになったことに対して現在は外科での不安はなく前向きに相談してくれる、形成外科の医師に感謝です。
30歳代	女性	子宮				常にこやかに落ち着いて話を下さったので、はじめて「がん」と言われた時にさほどショックをうけずに済んだ。今までの生活習慣についてや、家族への負担を重い自責の念が起こった際も、「めずらしい病気ではない」「誰にでも起こりうる事」等、落ち着かせて下さった。
70歳代	男性	胃	初期の胃がんで、三分の二を切除した。			他の疾患のため、定期的に薬を調合してもらいに、外来で胃の手術をした医師の診察を受けていて、半年に一度血液検査しているが、異常なく且つ、血圧、体重、私の外見などから変わらないので、医師が安心している表情をするので、私もその顔を見て、安心できている。
50歳代	女性	乳房	乳房温存手術	体に合わずすぐ		治療以外にはあまりありませんでしたが、医師が冷たかったわけではなく、どの治療法をえらぶかがこれからの生き方を決める第一歩である二人で(私と医師)で決めたからです。セカンドオピニオンもとり、最後はやはり私自身がきめましたので。
50歳代	女性	子宮				始めて抗がん剤治療に入る時 とにかく怖かった。不安だった。そんな時同室にすでに同じ治療をした方が居て、いろいろ教えていただいて少し楽になった。周りには同じような方がたくさんいてもっと大変な方もいた。私だけが辛いんじゃないって思えた。
40歳代	女性	乳房	乳房全摘出手術・乳房再建術	ノルパデックス		私の場合、外科と形成外科の二つに通っていました。その形成外科の先生はメンタル面でも助けていただき感謝しています。病院にそのがんというモノのみを診る先生ばかりで気が滅入りますが私の場合はその先生のおかげで治療にも前向きに挑めました。
60歳代	女性	乳房	右乳房摘出			術後の死の恐怖、大丈夫だと医師から言われても信じられなかった。このままではいけないと、仕事(内職)に没頭し、離れた所に引っ越し、環境を変えたことが良かった。そのため10年位身体・金銭的に大変な思いをした。

## 7. 医療機関や医師が行ったことで、「診療に関すること以外の悩み」の軽減に役立ったことは何ですか。

40歳代	女性	肺	右肺中葉切除の開胸手術			はっきり告知してほしいことと、5年生存率もちゃんと聞いた上で手術を決めたいことを伝えたので、がんの大きさや手術の成功確率や5年生存率をちゃんと説明して教えてもらったので、納得の上手術を受けることができた。
70歳代	男性	甲状腺	甲状腺全摘			主治医の人格如何でかなり結果が異なると思う。自分のケースでは医師に全てを委ねられる信頼感を持ったので、ほとんど悩みはなかったし、家族も冷静でいられた。この医師なら結果が悪くて死んでも悔いはないと考えた。
40歳代	女性	卵巣・卵管	開腹手術(両側の卵巣、卵管、子宮、大網の切除とリンパ節郭清)	タキシテール、パラプラチン		同じ病棟に入院していた人たちと就寝時間まで、いろいろ話しをしたことです。また、息子2人が、当時高校生と中学生だったので、なんとしても、がんを治して子供たちの世話をしたいという気持ちが強かったです。
50歳代	男性	胃	①病状:食道、胃癌T4 IV②手術内容:胃全摘手術、合併切除臓器:膵臓、胆嚢、開胸手術下部食道切除	シスプラチンTS-1		担当医師から「診療に関すること以外の悩み」の軽減に役立ったことは特に無かった。自身、悩んでもどうにもならないことと諦めた時点で、気持ちの上で居直り的な心境に変わり、全てが冷静に見える様になった。
60歳代	男性	骨髄腫	VAD療法			主治医はよく話を聴いてくれるが、多くの患者を診察しているので、時間に制約がある。4週間に1回の外来診療時に、薬局でいつも決まっている薬剤師が30分から1時間くらい時間をかけて話を聞いてくれる。
60歳代	男性	胃	胃がんのため胃摘出 肝細胞癌のため肝臓摘出 肺気球の手術	肺気球		大事に思ってくれる家族に恵まれたので、不安はない。胃がんは44歳だったので、家族のこれからが心配だった。肝がんは66歳になっていたし、いかにこれからを生き、いかに死ぬかだと思っている。
60歳代	男性	膀胱	内視鏡にて手術			癌と宣告されて内視鏡手術も無事に終わり、後遺症もまったく無く、幸いにも再発していないし、手術前の健康と同じと言っていい状態を保っているの、今を生きることで社会貢献をしてゆく。
50歳代	女性	その他	CHOP療法+リツキサン			治療中に担当医と話した治療以外の雑談の中でなにげない言葉で気づかされたことがいろいろあった。同じ病人を見てきた医師ならではのことだと思う。ある程度の診療時間と対話が大事だと思う。
60歳代	女性	甲状腺	右甲状腺摘出手術			やはり、心の不安を話すことは大切。その他植物園のボランティアや子育て支援のボランティアなどでかかわっている、その時間だけでも心を無にして楽しむことでバランスを保っている。
50歳代	女性	乳房	乳房温存療法手術	CAFとハーセプチン		同じころ手術した人がまた癌が発見され再手術をしたので不安になっていた時、これだけの治療をしたんだからあなたはまず再発する可能性はないから！癌になりたいの!?!と言われた言葉。
40歳代	女性	胃	胃がん2/3胃摘出手術 乳がん・乳房温存手術	胃がん・抗がん剤(注射と投薬) 乳がん・ホルモン剤(ノルパデックス)	乳がん・左胸25回照射	担当医が気さくで、楽観的に対応してくれたのが良かった。放射線治療の不安材料を羅列され、当時余計に鬱気味だったが、看護師さんに不安を相談したら、適切な説明で払拭してくれた。
70歳代	男性	大腸・直腸	腹腔鏡下S状結腸癌摘除手術			癌摘出手術後の病理組織標本の提供に始まり、検査所見すべてについて記録文書を提示あるいは印刷して手交してくれているので、無用な不安を持つことがなかったのは大変に良かった。
50歳代	女性	乳房	右乳房全摘手術	抗癌剤(EC)ホルモン療法(フェマール)		隣の県で発足されている乳がん患者の会「紫陽花の会」に参加して、同病者との触れ合い、話の中で、辛いのは自分だけじゃない、みんな頑張ってるんだと感じられた事。
30歳代	女性	その他				主治医からは悩みの軽減にあたるようなフォローアップはありませんでした。「現在は告知が当たり前です」とTPO考えず告知したがる医療スタッフに幻滅しました。
40歳代	女性	乳房	乳がん 右乳房全摘手術	抗がん剤 アドレマイシン タキシテールホルモン剤 フェアストン アリミデックス		何でも話せる場を提供してくれた。分からない事があつたらなんでも聞けるよう、みんなで集まってる勉強会を開いてくれる経済的な負担がないよう気を使ってくれる、
50歳代	女性	大腸・直腸	腫瘍の切除と人工肛門			医師に退院後も抗がん剤投与をすすめられ拒否したとき、嫌な顔をせず言うことをきいてくれたこと。おかげで気持ちよく自分中心の生活に切り替えることができた。

## 7. 医療機関や医師が行ったことで、「診療に関すること以外の悩み」の軽減に役立ったことは何ですか。

60歳代	男性	大腸・直腸	内視鏡的早期悪性腫瘍粘膜切除手術			内視鏡検査に置いての(胃・大腸)癌は除去したので食道関係の癌は現在は大丈夫ですと言われた事が一安心できたが反対に他には？との不安材料にもなっている。
40歳代	男性	その他				”医師の痛烈な一言に”ウツになりかけた。医師はモット言葉を選択してものうべきである。それをカバーしてくれたのは、看護師さんの献身的な行動であった。
40歳代	男性	胃	KIT陽性消化管間質性腫瘍(悪性)			インターネットによる同じ症状に悩んでいる方々の体験談。又、『胃』を全摘出したので『アルファ』クラブに入り、毎月1回の機関紙を送ってもらっています。
60歳代	男性	胃	胃切除術	胃カメラ 超音波胃カメラ	UFT	初期の胃がんだと告知されたときは目の前が真っ白になるほどショックだったが手術により癌は取り除かれ転移もしていなかったのだから不安は少なくなった。
40歳代	女性	乳房	左乳房部分切除手術		ホルモン療法 ゾラデックス 注射ノルバ デックス服用	手術の時期を自分の希望に合わせてしてもらえたこと。(子どもの学校の卒業式・入学式を控えていたので、それに出席できるように日程を組んでくれたこと)
60歳代	女性	乳房	左乳房全摘手術	シクロフォスファミド フルオロウラシル塩酸 エビルビンパ リタキセルアナスト ロゾール(アリミデクス)		あまりなかった。ただ、経済面で苦慮していたときに障害年金請求のために親身に相談に乗っていただき、診断書を書いていただいたのはありがたかった。
70歳代	男性	肺	右肺 下1/3を切除		抗癌剤服用 4クール	入院中 心のケアの窓口がほしかった 医師や看護師にいけない不安や不満を受け止める窓口 看護師さんの優しさ！(看護婦さんと呼んでなぜ悪い！)
30歳代	女性	胃	胃全摘術	TS1		医療機関や医師に、悩みを相談する事はなかったので、気付いていないだけかもしれませんが、これといったアドバイスを受けていないように思います。
70歳代	男性	膀胱	膀胱および前立腺の開腹全摘出術 以後の尿処理は回腸導管によるストマーからパウチへ 蓄尿			家族 友人 近隣の人たちの暖かい理解と対応で不安はないが 温泉や大衆浴場などで周囲からの一瞬の不快感や不安感を持つ視線だけは気になる
70歳代	女性	口腔・舌	下顎歯肉癌 気管切開・リンパ節郭清・頸部郭清術・下顎辺縁切除・再建術(移植)			担当医の対応が、自分の身内に対して思いやるような温かさ・やさしさがあり面対していると心が安らぐ。命をまかせられるという安心感がある。
30歳代	女性	甲状腺	甲状腺全摘出手術			ガン告知を受けた事により死がよぎりました。主人とたわいもないこと、些細な事でも話をすること充実した毎日が送れる事に日々感謝をすること
50歳代	女性	甲状腺	甲状腺全摘手術	チラーヂン		行頭や待合室で、自分より大変そうな方や難病の方が一生懸命病氣と戦っている姿を見て、私も負けてはいけないと頑張る気力がでてきたこと。
50歳代	女性	子宮	子宮摘出			私の担当医は患者と同じ目線、対等な立場での会話を心がけてくれたので、どんな些細なことでも気軽に話したり聞いたりすることが出来た。
70歳代	男性	腎臓・副腎	腎臓がん			死神をみてやつと生きられ家族の温かい支えで毎日が楽しく生きていて良かったと思う 再発転移しないか悩みは絶えないが生きがいを感じる。
60歳代	男性	大腸・直腸	内視鏡によるポリープ除去			医者には癌の時は必ず教えて欲しいと言っていたんが、退院前日に詰め所に呼ばれ実は直腸がんといわれたので、後のショックが大きかった。
70歳代	男性	大腸・直腸				今のところ転移はありません。もう少し様子を見ましょう！もう1年経ちましたね！この調子で！ 等々主治医の定期健診ごとの優しい言葉。
40歳代	男性	精巣	精巣摘出			看護師さんが献身的に看病してくださいました。但し、合併症予防のために隔離された時は、話し相手が無くさみしい想いをいたしました。
50歳代	女性	乳房	左乳房全部摘出手術	ノルバデックス、現在はフェマーラ		手術後、最初に行った患者友の会で医者の言葉の「死を受け入れなさい。人はいつかは死ぬのだから」これを聞いて、ずいぶんと落ち着いた
40歳代	女性	甲状腺	甲状腺全摘	胸腔鏡手術		主治医にはプライベートな話や雑談で信頼関係を築いてもらえたので感謝している。何でも気軽に相談出来て大きな力になってもらえた。

## 7. 医療機関や医師が行ったことで、「診療に関すること以外の悩み」の軽減に役立ったことは何ですか。

50歳代	男性	大腸・直腸	腹腔鏡手術	抗がん剤		もともとパニック障害、うつ病を患っていたにもかかわらず、がん治療中(手術後)その薬を制限されたことにより、心身症が悪化した。
50歳代	女性	胃	胃全摘直腸切除	肺部分切除	5FU シスプラチン 5FU オキサロプラチン ロイコボリン	生甲斐等は自身の考えであって、医療従事者が支援できることは少ないでしょう。真摯に患者と向き合ってくれることが一番と思います。
50歳代	男性	白血病	抗がん剤:エンドキサンP錠 ホルモン剤:プレドニン錠			完治できなくとも運の良い人は病気とうまく付き合っ普通の人と同様に長生きしているからあきらめる必要はないと助言されたこと。
50歳代	女性	乳房	乳房おんぞん手術だったと思います。	抗ガン剤もホルモン療法もしましたが薬等は忘れられました。		特になかったです。元気な頃と同じ普段通りでした。私は病気になっても心配や怖さなど全然なく、きつとかわっているのでしょうか。
30歳代	女性	白血病	とにかく移植前に全身に浴びました。			移植してもらった姉への配慮が一番大変でした。自分が患者なのに・・・とにかく、主人に愚痴をいってストレスを発散していました。
60歳代	男性	白血病	ABVD療法アドリアシンブレオマイシンエクスザールダカルバジン			主治医から同一疾患者の5年・10年「生存率」についての説明を受けた事…本人より家族が今後に対する「安心感」を得られた。
50歳代	女性	胃	胃切除術(体下部2/3切除、リンパ節切除)	TS1		その都度感じる不安や疑問に適切に答えてもらえたこと。でも、あまり心の問題をゆっくり相談出来るような機会や場はなかった。
70歳代	男性	胃	胃80%切除			たまたまこのときに看護婦の実習で看護学生が来て施術の前後5日ほど付き添ってくれたが、このときの彼女のメモが役に立った、
50歳代	女性	乳房	乳癌根治術 乳房部分切除	FEC療法(フルオロウラシル、エビルピシン、シクロホスファミド)タキサン療法(パクリタキセル)ホルモン療法(タモキシフェン)	左乳房照射(50Gy/25Fr/5w)	院内の患者会が主催する講演会で、サイコオンコロジーの専門家(精神科医)の話を聴く機会があったが、比較的参考になった。
50歳代	男性	すい臓	膵頭および十二指腸切除術(PD)	当初ジェムザール点滴、ただし白血球が減少したため、計4回で中止。それ以降、TS-1(カプセル)飲み薬を3週服用、1週休みのインターバルで1年服用。		定期的な検診(CT等)の検査結果を聞きに行ったときに、「とりえず悪い所見が無い」と言われたときには「ほっ」とする。
60歳代	男性	大腸・直腸	S状結腸切除術。	内視鏡。	TS-1	常に明るく何の心配も無く安心出来る環境であるように振舞ってくれた病院関係者、とくに毎日接する看護婦には感謝している。
20歳代	女性	乳房	全摘出術	FEC リュープリン		カウンセリングの先生を紹介して下さいました。カウンセリングの先生も乳がんを患ったことがある先生でいろいろ聞きやすかったです。
40歳代	女性	子宮	拡大子宮全摘術+両側卵管切除+膈壁切除+レーザー蒸散			担当の医師が話しやすい方だったので、納得いくまで質問や話し合いができ、病気・治療に対する不安がかなり軽減された。
30歳代	女性	大腸・直腸	覚えていません	ユーエフティューゼル錠		外科医には診療に関する相談しかなかったが、もっと内面的な悩みを心療内科医などに気軽に相談できる体制がほしかった
70歳代	男性	胃	ルーワイ法	ティーエスワン(内服)パクリタキセル(点滴)		日常生活のすごしかた(あせらずあきらめず前向きに)消極的ならずに積極的に仕事やボランティア活動に参加するべし。
30歳代	女性	子宮	円錐切除			気休めかもしれないけど、私が患った病気が大した事ではないと医師に言われた事で、気持ちがラクになったと思います。
30歳代	女性	乳房	乳房悪性新生物除去術温存	ゾラテックスオシム(ノルバテックスのジェネリック)	1回2.3分 土日を除く毎日照射 合計30回合計50ケイ	治療中マラソン大会に出たいといったら、応援してくれた。基本的に制限事項はなく、相談するとほぼOKをもらえた。
50歳代	女性	子宮				時間がたつにつれ本人のもしかして死ぬかも？と言う諦めみたいな自覚が出てくる、自然と前向きな気持ちにもなる。
70歳代	男性	前立腺				「この癌にかかった人でも、天寿を全うすることができた人が圧倒的に多いので、心配は無用です。」との医師の言葉。
30歳代	女性	子宮	円錐切除			先生が独自の意見の持ち主だったので治療の合間に先生の意見を聞くのは将来を考える上で刺激や参考になりました。

---

本調査に関するお問い合わせ先:

株式会社QLife 広報担当

TEL : 03-5433-3161 / E-mail : [info@qlife.co.jp](mailto:info@qlife.co.jp)

<株式会社QLifeの会社概要>

会社名 : 株式会社QLife(キューライフ)

所在地 : 〒154-0004 東京都世田谷区太子堂2-7-2 リングリングビルA棟6F

代表者 : 代表取締役 山内善行

設立日 : 2006年(平成18年)11月17日

事業内容 : 健康・医療分野の広告メディア事業ならびにマーケティング事業

企業理念 : 生活者と医療機関の距離を縮める

サイト理念 : 感動をシェアしよう!

URL : <http://www.qlife.co.jp/>

---